

**メッセージ: イエス様と共に歩むことは、愛に生き、また神様に生きることである**

OIC の皆様おはようございます。ようこそ神の家に来られました。皆様を歓迎いたします。

今日は、引き続き使徒ヨハネの第一の手紙の意味を一節ずつ解釈して明らかにしていきます。聖書全体が聖霊様によって書かれたものです。これまでの使徒ヨハネの手紙第一からのわたしのメッセージで、ヨハネのクリスチャンに対する教えの意味を引き出そうとしてきました。これは、イエス様と共に親密に歩むことによって、クリスチャンが神様の御心を行えるようにするためでありました。

そのような愛、そのような不思議な愛

先週のメッセージは“イエス様とともに歩むことは、神様が私たちを愛してくださったからこそ、クリスチャンを愛することである”がタイトルでした。一貫した愛には、本当に超自然的な愛が必要だと締めくくりました。その愛は神様からのみもたらされるものです。クリスチャンには無限の愛の源、神ご自身がおられるのです。

そして次の<ヨハネ第一の手紙 4 章 11 節>

愛する人たち。神がこれほどまでに愛してくださったのですから、私たちもまた、互に愛し合おうではありませんか。

「神様がこれほどまでに私たちを愛してくださったのだから」の意味を引き出すことそして、私は地球という惑星について、現実的な霊的な見解を述べました。：“天国から見た世界を想像してみてください。それは罪の丸い地球です。神様は天地を揺るがすほどの激しさで罪を憎んでおられます。しかし、それは 2000 年少し前のことです。神様はその真ん中にすばらしいものを送り込もうと計画します。みなさんは原爆の弾頭を搭載したスピリチュアルなロケット船のような裁きの天使が、この憎悪と汚物の邪悪な塊を一度の大爆発で破壊してくれると期待するかもしれません。しかし神様は・・・神様はそれを救うためにひとり子イエス様を遣わされました！信じられますか？!!! .... これが本当の愛です。さらに言えば、“神様がこれほどまでに私たちを愛してくださったのだから”とは、神

様は御子を遣わして、イエス様の血に染まった十字架の上での残酷な死という、常習犯が受ける処刑によって世を救われたということです。

<ヨハネ第一の手紙 4 章 10 節>

神に対する私たちの愛ではなく、私たちに対する神の愛によって、私たちの罪へのなだめとして、神のひとり子が遣わされました。ここに真の愛があるのです。

ギリシャ語新約聖書における「犠牲」とは、hilasmos、すなわち神様の怒りを鎮めるための血の犠牲のことです。私たちクリスチャンは、私たちがいかに非難を受けるだけの存在であったかを知っています。しかし、私たちは神様の贈り物であるイエス様を受け取り、神様の愛を受け取る終わりのない人生を送ります。

神様が人に啓示された

<ヨハネ第一の手紙 4 章 12 節>

私たちは、だれも神を見たことはありません。しかし、互いに愛し合う時、神は私たちの心の中に住んでくださり、心の中にある神の愛を、なおいっそう強めてくださるのです。ヨハネが<ヨハネ第一の手紙 1 章 1-2 節>で書いているように、イエス様は肉体をもたれた神様でありました。

1 私は、この世界が造られる前から存在しておられたキリストをこの目で見、そのことばをこの耳で聞き、その体にこの手でふれました。キリストは、神のいのちのことばです。

2 このいのちである方は私たちに現れ、私たちは確かにこの方を見ました。私が伝えたいのは、永遠のいのちである、このキリストのことです。キリストは初め、父なる神と共におられましたが、やがて私たちの前に姿を現されました。

だから、あなたは、ブルース牧師、ヨハネが<ヨハネ第一の手紙 4 章 12 節>で、“私たちは、だれも神を見たことはありません。”とどうしてこう言えるのですか、と尋ねるかもしれませんが、使徒パウロが、イエス様が天国を離れて地上に赤ん坊として生まれたときに何をされたかを説明しているので、私たちはその答えがわかります。

<ピリピ人への手紙 2 章 6-7 節>

6 キリストは神であられるのに、神としての権利を要求したり、それに執着したりはなさいませんでした。

7 かえって、その偉大な力と栄光を捨てて奴隷の姿をとり、人間と同じになりました。こうしてイエス様は、「神のかたち」を捨て、あるいは、「神のかたち」をなくされたのです。これは、<ピリピ人への手紙 2 章 6 節>から、「神の平等と正当な威厳の外見的表

現」でありました。これは神様の物理的な栄光であると同時に、すべての生きとし生けるものによる正当な礼拝の要求であり、父なる神様と共有されるものです。三位一体の第三位格である聖霊様もまた、礼拝の正当な要求を持っています。聖霊様は栄光を持っていらっしゃるが、その栄光を見せびらかすのではなく、人々の注意をイエス様に向けさせるようにされておられます。聖霊様の使命は、目に見えない風のように人々の間を動き回り、霊的再生の賜物をもたらすことでもあります。

<ヨハネによる福音書 3 章 5-8 節>でイエス様がニコデモに語ったように

5 よく言うておきますが、だれでも水と御霊によって生まれなければ、神の国には入れません。6 人間からは人間のいのちが生まれるだけです。けれども御霊は、天からの、全く新しいいのちを下さるのです。7 もう一度生まれなければならないといって、驚くことはありません。8 風は音が聞こえるだけで、どこから吹いて来て、どこへ行くのかわかりません。御霊も同じことです。次はだれにこの天からのいのちが与えられるか、わからないのです。

それゆえ<ヨハネ第一の手紙 4 章 12 節>“私たちは、だれも神を見たことがありません。”とは誰も神様の栄光を視覚的に見たことがないという意味です。

ヨハネはイエス様に触れました。イエス様は肉体をもたれた神であり、神の子です。

そして<ヨハネ第一の手紙 1 章 2 節>

このいのちである方は私たちに現れ、私たちは確かにこの方を見ました。私が伝えたいのは、永遠のいのちである、このキリストのことです。キリストは初め、父なる神と共におられましたが、やがて私たちの前に姿を現されました。

ここでは、三位一体である神様の属性を説明しようと試みました。それは信仰によって受け入れられなければならない聖書の真理です。しかし、クリスチャンが成熟するにつれて、神様は彼らが人生の中で三位一体すべての臨在を感じ、それぞれの人格からのコミュニケーションも感じることを望んでおられます。次の節は、この教えに合っています。

### 聖霊様の賜物

<ヨハネ第一の手紙 4 章 13 節>に次のようにあります。

神は、私たちの心に聖霊を与えてくださいました。それによって、私たちは神と共に生き、神も私たちと共に歩んでくださることがわかります。

罪人がイエス様を信じる時、御霊なる聖霊様はその人の内に住み、罪人を聖なる聖人に生まれ変わらせます。御霊なる聖霊様は私たちの内におられるキリストであり、栄光の希

望です。三位一体であられる神様はやはり一つであられるから、私たちは同じ御霊なる聖霊様によって父なる神様と交わりを持ちます。私たちはイエス様のうちに生きているのだから、私たちは神様のうちに生き、神様は私たちのうちにおられるのです。

御霊なる聖霊様 --- 私たちが神様のうちに生きていることの証です。霊的に生まれ変わった後の新しい心のすべての感覚は； どういうわけか罪への強い誘惑に負けない； 自分力ではなく、神の力によって保たれていることを知る； 聖書通読がエキサイティングな冒険に；あるいは、静かな小さな声になるということです。これらは、私たちが神様のうちに生き、神様が私たちのうちにおられることの少しの証です。私たちはまず、聖書に書いてあるから信じます。イエス様とともに歩むことは、私たち一人ひとりの人生において、たくさんの個人的な方法で証があらわれます。これらは、私たちがイエス様に会うとき、神様がクリスチャンのために用意された栄光の前触れです。

#### イエス・キリストを証し宣言する

さて、使徒ヨハネは、神様の御子イエス様の地上での個人的な証しを再び述べています。このことは、＜ヨハネ第一の手紙 4 章 14 節＞に示されています。

さらに私たちは、神がひとり子を世の救い主として遣わされたのをこの目で見、それを、いま全世界に伝えています。

ヨハネは、「私たち」（使徒たちや他の多くの人々）がイエス様を目撃し、個人的に証言していることを強く主張し強調しています。個人の証しは、力強い信仰を築くものです！ OIC のクリスチャンのみなさんが、神様があなたの人生になさっていることを互いに励まし合うことができるよう祈っています。みなさんが一緒にいるとき、“イエス様について話しましょう”というような時間はどうでしょうか？お互いの信仰を高め合うのに、小さすぎることはなにもありません。これもまた、“互いに愛し合う”方法のひとつです。先週、ここ OIC の忠実な友人から、福音を伝えることについての愛のある励ましの E メールを受け取りました。

#### ＜ヨハネ第一の手紙 4 章 15 節＞

イエスを神の子と信じ、それをはっきり告白する人のうちには、神が生きておられます。そして、その人も神と共に歩んでいるのです。

ここでヨハネは、真のクリスチャンに対するテストを与えていますが、同時に、世界中のすべての人々に対する招きでもあります。現代英語訳聖書(要約) は、＜ヨハネ第一の手

紙4章14-15節>に対して優れた釈義、あるいは真の意味を与えています。そこにはこうあります。

14 神は御子を世の救い主として遣わされた。私たちはその御子を見て、今、そのことを他の人々に伝えている。15 神は、イエスが神の子であると公言するすべての人と一体であり続ける。これが、私たちが神とひとつであり続ける方法なのだ。

私は『聖書全集』（TCBL）からの次の引用が好きです：“14節は、キリストが世界全体に得られる救いを与えたことを明らかにしているが、それが自動的に全人民に適用されるわけではありません。そこで15節にはイエス・キリストが神の子であることを認める

〔宣言する〕”という神様の啓示された方法で神様に近づこうとする者に門戸を大きく開いていますと続きます。このように、イエス様が神様の子であると宣言する者、あるいはイエス様が神様の子であると公言する者には、神様の家族に入る扉が開かれています。神様が誰かの中に住んでいることを示すのは、誰かが最新の映画やディズニーのファンタジーの物語について話すように、イエス様について気軽な発言をするようなことではありません。また、イエス様が神の子であることを私的に宣言するだけでもありません。使徒ペテロは、伝道者や説教者として召されていないクリスチャンに、彼らの聖なる生き方がノンクリスチャンを彼らに引き寄せることを教えました。彼は<ペテロ第一の手紙3章14-16節>でこう言っています。

14 かりにそのようなことがあっても、幸いと思いなさい。神があなたがたに報いてくださるからです。15 心を動揺させないで、ただ主キリストを信じなさい。もしだれかに、「なぜキリストを信じるのか」と尋ねられたら、いつでもその理由を話せるようにしておきなさい。ただし、おだやかに、真摯な態度で説明すべきです。16 そして、正しいことを行いなさい。そうすれば、悪者呼ばわりする人たちも、やがて、あなたがたの正しい生き方に気づいて、自分たちの行為を恥じるでしょう。

次は <ヨハネ第一の手紙4章16節a>私たちは、自分がどんなに神に愛されているか知っています。現に、神の愛を身近に感じ、また、私たちが心から愛すると言われた神を信じているのです。

クリスチャンがイエス様の十字架と、そこにイエス様を遣わした神様の愛を思い出すと、神様の愛に信頼する説得力と魂を揺さぶるような理由となります。クリスチャンが人生で試練やテストに直面することは多々あります。時には自分が経験していること、あるいは体験していることに対して、自分が犯した罪など、特別な理由が見つからないこともあるように思えます。このような時こそ、神様がどれほどクリスチャンを愛しておられる

かを知ることが非常に重要です。クリスチャンが神様の愛に信頼を置き、それを保つとき、クリスチャンは試練やテストに耐えるために、天の父から平安を受けます。

<ヨハネ第一の手紙 4 章 16 節>

神は愛です。愛のうちに生きる人は神と共に生きるものであり、神もまた、その人のうちに生きておられるのです。

今日のメッセージのタイトルは、この 16 節からとりました。-- イエス様と共に歩むことは、愛に生き、また神様に生きることである。この聖句は、私たちクリスチャンの内側に住んでおられる神様の、最優先の、あるいは「大きな」姿をとらえています。

神は愛です。--ヨハネはこの力強くも単純な言葉を次のように繰り返しています。

<ヨハネ第一の手紙 4 章 8 節>

神は愛です。

先週説教したように、ヨハネは次に<ヨハネ第一の手紙 4 章 9 節>で「愛の定義」を述べています。

神はそのひとり子を世につかわし、彼によってわたしたちを生きるようにして下さった。愛とは、神様が御子イエス様を遣わし、神様のすべて、すべての善意に反対する罪に満ちた世界を救うことです。罪は実際に愛そのものと戦っています。

神様はクリスチャンの中に生きておられます。-- 新しく生まれ変わったクリスチャンはキリストを受け、神様が聖霊様によって彼らの内に住み始められます。私たちは信仰によって、「聖書がそう言っている！」と信じます。しかし、私たちが成熟し、イエス様の近くを歩くようになると、個人的な経験によってもそれを知るようになります。

<引用元: 聖書全集(TCBL)>:

“聖霊様の助けによって、作家 {ヨハネ} は「愛は神である」とは言っていないことに注意してほしい。なぜなら、真の愛でも最高の愛でもない表現に当てはまるものはたくさんあるからだ。むしろ、神様は愛の本質そのものなのだから、神様がなさることはすべてその本質に由来する。そして、新しく生まれ変わった {ブーン=アゲイン} のとき、クリスチャンは神性を共有するようになる; 愛が彼らの最重要なトレードマーク (またはライフスタイルの特徴) となる。

<ヨハネ第一の手紙 4 章 16 節>

愛のうちに生きる人は神と共に生きるものであり、神もまた、その人のうちに生きておられるのです。--この同じ聖書の一節、<ヨハネ第一の手紙 4 章 16 節>にあるこの語句は、上に引用したように、(TCBL の) 編集者が書いたのと同じ意味を持っています。

クリスチャンは神性を共有するようになる；愛が彼らの最重要なトレードマーク（またはライフスタイルの特徴）となる。

永遠の光に照らされて

次にヨハネは、今クリスチャンに起こっていることから展望しています。今起きていることは、永遠の審判の日に影響します。

<ヨハネ第一の手紙 4 章 17 節>に

キリストと共に歩む時、私たちの愛は成長し、いっそう完全なものとなっていきます。そうすれば、さばきの日に恥じ入ったり、うろたえたりしないですみます。それどころか、確信と喜びにあふれて、主の御顔を見ることができるようになります。私たちはキリストと愛で結ばれているからです。あなたの牧師がよく思い起こさせるように、そう、もう一度繰り返しますが、成熟したクリスチャンは永遠の「光」の中で生きることを学ぶ絶え間ないプロセスの中にいるのです。これでは、神様が「今日の祝福を享受する」ことを望んでいないように感じるかもしれません。しかし、そう感じる必要はありません！クリスチャンが天国にある自分の家に確信を持てば持つほど、神様がこの地上に送ってくださるどんなものでも楽しむことができます。神様は、私たちの心からの願いだけでなく、神様の知恵に従って祝福を送ってくださいます！永遠の光の中で生きることはまた、聖霊様がクリスチャンの輝かしい未来を高め、あるいは力強く明らかにするための、とてつもなく開かれた扉でもあります。

<ヨハネ第一の手紙 4 章 17 節>

そうすれば、さばきの日に恥じ入ったり、うろたえたりしないですみます。

このことは、賛美歌『When I Can Read My Title Clear』の第 1 節で宣言されています。旧 OIC 賛美歌集 (TH) の 538 番にはこうあります。：

“自分の存在がはっきりわかるようになるとき、天国の大邸宅、  
あらゆる恐怖に別れを告げよう、そして、私の涙を拭う。”

誰かが言うかもしれません：「でも、裁きの日なのに、どうしてそんなことが言えるのですか？」と。なぜなら、神様のうちに生きるにつれて、私たちの愛はより完全なものになっていくからです。私たちの愛が年月を経てより完全なものになったことを経験するにつれて、私たちはこの世界でイエス様のように生きているのだという自信を得ます。裁きの日を恐れるということは、実際にまた本当に“自分が本当に新しく生まれ変わったクリスチャンなのか”と心の奥底で疑っているということです。この疑念を抱えたまま生きる

ことを受け入れるようなクリスチャンになってはいけません。それは内なる敵が疑念を抱かせます！あなたはクリスチャンであるという意志と聖霊の剣をもって、それを屠り、殺さなければなりません。-そして、神様の言葉と祈りによってあなたが生きていく限り、あなたの内なる疑念が消え去るようにするのです！疑いによって、クリスチャンは憂鬱と恐れという低い感情の中で生き続けます。イエス様への信仰と確信は、たとえ困難な時や「涙」のそのような低い気持ちから脱出し気持ちを引き上げてくださいます。

あなたが本当に新しく生まれ変わったクリスチャンであることを知っているなら、裁きの日は報酬のためであり、罰せられるためではないとイエス様が約束されたことも知っています。イエス様は<ヨハネの福音書 5 章 24 節>で言われました。

よく言っておきます。わたしの言うことを聞き、わたしを遣わされた神を信じる人にはだれでも、永遠のいのちがあります。罪のために罰せられることは絶対にありません。すでに死からいのちに移っているのです。

注：真理であるイエス様が「あなたがたに真理を告げよう」と言われるとき、あなたはこの真理に下線を引き、心のコンピューターメモリーと心の奥底に貼り付けることができます。なぜならイエス様が言われたことはすべて真実だからです。

<ヨハネ第一の手紙 4 章 17 節>のこの聖句、「なぜなら、私たちはこの世でイエスのように生きるからだ」、は私たちの主は目指すべき素晴らしい模範であるということです。私たちはその目標に人生を捧げることを決して止めてはなりません。しかし、私たちはイエス様と顔と顔を合わせて対面するまでは、完全にイエス様のように生きることはできません。そう、それは<ヨハネ第一の手紙 4 章 17 節>にあるように私たちがもはやこの世にいないときです。それは、私たちが進んでいる方向.....私たちは時に、それに向かって競争しています！あるいは.....少なくとも、私たちはこの世界でイエス様のように生きるために進み続けます。

私たち英語を話す人の多くは、讚美歌 387 番を好んで歌います。”ああ、あなたのようになるために。祝福された贖い主よ、これが私の絶え間ない切望の祈りです。” 親愛なる OIC のクリスチャンの皆さん、あなたの中に疑いを抱いたまま成熟を遅れさせてはいけません。新しく生まれ変わったばかりのクリスチャンであった若い頃を振り返って、私はこう言うことができます：“今日、私はあるべき姿のすべてではないかもしれないが、クリスチャンになりたてのあの頃の私ではないことをとてもうれしく思います。私たちがイエス様とともに歩む年月の中で神様の愛を経験するにつれて、神様は私たちに神様の愛に確信を持たせてくださいます。約 40 年前、私は神様の愛に対する自分の小さな確信を恥じ、

悲しく感じました。私は神様への祈りの歌を書くことに決めました。私は『Make Me Confident in Jesus』をこの曲のタイトルにしました。その日以来、神様は私の祈りの歌に答えてやみません。神様は私のためにそうしてくださったし、あなたのためにもそうしてくださいます。“神の愛は、クリスチャンが裁きの日に確信をもって神の前に立つことを可能にする。（TCBL／ヨハネ第一の手紙 4 章 17 節）より

恐ろしい未来？

使徒ヨハネは、肉となられた御言葉であるイエスが宇宙を創造されたと宣言しています。イエス様の指が太陽とすべての星を形作ったと想像してください。太陽は、毎秒核爆弾 8 個分の質量エネルギー変換率でエネルギーを放出します。このように、聖書を裏付ける科学的事実があります。

<ヘブル人への手紙 10 章 31 節>。

生ける神の手の中に陥ることは、なんと恐ろしいことでしょう。

罪深い人間が、このような正しい聖なる力を持つ神の前に立つことができるのでしょうか？キリストがいなければ...恐れと震えがあります！キリストとともに...イエス様は私たちの神であり、友であります！そのような私たちクリスチャンに対して、ヨハネは次のように言っています

<ヨハネ第一の手紙 4 章 18 節>:

ですから、私たちが心から愛してくださる方を、どうして恐れる必要がありません。もし恐れがあるなら、それは、神が私たちに何をなさるのか不安をいただいているからです。神の完全な愛は、そんな恐れをすべて取り除きます。恐れている人は、神の愛をまだ十分理解していないのです。

私たち信じる者のためにイエス様を十字架に遣わした愛は、完全な愛です。それは神様の本性そのもの、神様は愛であられるからです。すべての恐れを消し去り、追い出します。さて、使徒ヨハネは、なぜあなたの牧師が個人的な体験を神様に求めること、つまり「体験するキリスト教」を強調し続けるのかを示しています。それは私たちの素敵なワーシップソング "イエス様を知ること、イエス様を知ること。これ以上のものはない"にあります。神様との親密な関係に満足していないのなら、ただ歌うだけではいけません。神様が、あなたの内側にもっとそれを起こしてくださるように祈ってください。--- 一分一秒、一日一日、一年一年、神様の栄光の御顔を見るまで。

次にヨハネが言う： 私たちが恐れているとすれば、それは罰を恐れているからであり、それは私たちが神様の完全な愛を完全に体験していないことを示しています。一瞬たりとも待たないでください。... または親愛なるクリスチャンよ、神様の完全なあなたへの愛を経験するためには、自分が完全でなければならない、と考えてはいけません。イエス様が十字架上で死なれたのは、私たちが罰の恐れを抱くことがないためです。神様の子どもたちからすべての恐れを追い出すという神様のご計画を示すために、聖書の箇所をいくつか挙げてみました。:

クリスチャンを恐れから解放する聖書の箇所

イエス様はクリスチャンに罪に定める「審判」はないと約束しています。

<ヨハネによる福音書 5 章 24 節>

よく言うておきます。わたしの言うことを聞き、わたしを遣わされた神を信じる人にはだれでも、永遠のいのちがあります。罪のために罰せられることは絶対にありません。すでに死からいのちに移っているのです。

使徒ヨハネはこの手紙を書くにあたって、次のように語っています。

<ヨハネ第一の手紙 3 章 1 節>

天の父は、どんなに私たちを愛しておられることでしょうか。私たちを、ご自分の子どもとして受け入れてくださったほどです。考えてもごらんください。神の子どもとされたのです。ところが、神を知らない多くの人は、当然、私たちが神の子どもであることを理解できません。

天の父についてのイエス様の約束<ルカによる福音書 11 章 13 節>

罪深い人間でさえ、子どもには良い物を与えたいと思うのが人情です。そうだとしたら天の父が、求める者に聖霊を下さらないわけはありません。

<テサロニケ第一の手紙 5 章 9 節>

神は、怒りを向けるために私たちをお選びになったのではなく、主イエス・キリストによって救うために選んでくださったのです。

私たちは聖書を読んでいます。私たちは心の中でそう信じています。しかし、神様の完全な愛がすべての恐れを追い払うためには、個人的な経験も必要かもしれません。その必要性を恥じてはなりません。聖霊様がヨハネに「あなたのために」と書かせたのです。

クリスチャンが恐れから解放されると、自分の中にいる神様が愛する力をもっと与えてくださるようになります。ここで、ニューリビングバイブル訳版はクリスチャンに対する非常に重要な教えを見逃しています。ニューリビングバイブル訳版の「私たちが互いに愛し合うのは、神様が私たちを先に愛してくださったからです」<ヨハネ第一の手紙 4 章 19 節 NLT>ではなく、原文のギリシャ語にはこうあります:「私たちが愛するのは、神様が最初に私たちを愛してくださったからである」<ヨハネ第一の手紙 4 章 19 節/NTG>。そう、私たちが他のクリスチャンを愛するのは、神様が最初に私たちを愛してくださったからなのです。しかし、新約聖書は、イエス様がクリスチャンである私たちの愛を、教会の内側にだけ、他のクリスチャンだけに向けることを意図していなかったことを明らかにしています。教会は社交クラブのような私的なパーティーではありません。神様は私たちだけでなく、全世界の人々を愛されたのだから、まず私たちが神様のような愛をもってすべての人を愛さなければなりません。<ヨハネ第一の手紙 4 章 19 節>は私たちに私たちはこの世でイエスのように生きると言っています。イエス様は、ご自身を遣わされた父と同じように世を愛され、最悪の罪人のためにご自身を血の犠牲として捧げられました。原文のギリシャ語にはこう簡単に言っています。:“私たちが愛するのは、神様が最初に私たちを愛してくれたから<ヨハネ第一の手紙 4 章 19 節/NTG>.”

次の節でヨハネは、私たちの愛の優先順位、あるいはより重要な対象である仲間のクリスチャンについて指摘しています。

<ヨハネ第一の手紙 4 章 20-21 節>にこうあります。

20 もし、「私は神を愛しています」と言いながら、兄弟であるクリスチャンを憎み続ける人がいれば、その人はうそつきです。目の前の兄弟を愛せない人が、どうして、見たこともない神を愛せるでしょう。」21 ですから神を愛する者は、兄弟をも愛すべきです。これは、神が命じておられることです。

もちろん、ヨハネはこのことを最優先事項としているだけでなく、真にクリスチャンであるかどうかのテストとしています。私たちは、この手紙の前の方で、次のように読んでいます。

<ヨハネ第一の手紙 3 章 15 節>

だれでも兄弟を憎む者は、心の中で人殺しをしているのです。言うまでもないことです。が、人殺しをする者に永遠のいのちはありません。

原文ギリシャ語は、動作動詞「hates」がアオリスト（不定過去文法）時制であることを明確に示しています。従って、他の兄弟姉妹を憎み続ける者は、心の底から殺人者であると

訳すべきです。私はまた、聖霊様が誰に対しても、特にクリスチャンに対しては、私たちの心に憎しみの電光石火の一撃が走ったときにも注意を払うという、すべてのクリスチャンの責任とともに、その意味を引き出そうとしました。ヨハネは、神様がキリストにおいて私たちに与えてくださった驚くべき恩寵を示すために、多くの節を書いています。私たちは、御子イエス様を受け入れる前は神様の敵であった私たちクリスチャンの内側に、神様が実際に住んでおられることを読みました。

さて、<ヨハネ第一の手紙 4 章 20 節>では

もし、「私は神を愛しています」と言いながら、兄弟であるクリスチャンを憎み続ける人がいれば、その人はうそつきです。目の前の兄弟を愛せない人が、どうして、見たこともない神を愛せるでしょう。」

また 20 節でもギリシャ語のアオリスト（不定過去文法）時制が適用されるべきです。:

もし誰かが、「私は神を愛し続けている」と言いながら、仲間の信者を憎み続けているとしたら、その人は嘘つきである。目に見える人を愛し続けなければ、目に見えない神を愛し続けることなどできるはずがないからだ。

継続的に--とは、クリスチャンであることを常に示すライフスタイルや生活習慣を意味します。

そして、私はこのメッセージを次のように締めくくります。

<ヨハネ第一の手紙 4 章 21 節>

ですから神を愛する者は、兄弟をも愛すべきです。これは、神が命じておられることです。

もし神様が、父と子の栄光と賛美のために、それを実現させる聖霊様の力を私たちに与えようとしなければ、神様は私たちにこのような不可能な行い、継続的な愛を求めることはないでしょう。讃美歌 387 番 (TH) ”ああ、あなたのようになるために” 本日のメッセージの冒頭で述べたように、この言葉は正確かつ真実です。私たちは皆、この聖書の讃美歌の歌詞を祈りとしましょう。:

ああ、あなたのようになるために! ああ、あなたのようになるために! 祝福された贖い主よ、あなたのように聖（きよ）らかに!

あなたの甘美のうちに来れ、あなたが満ちるように来れ---あなたの御姿を私の心に深く刻んでください..

祈りましょう・・・